

国際コンファレンス「アジアの成長と金融セクターの役割」  
2011年2月3日

# アジア諸国における金融セクター及び 規制フレームワークの現状： タイのケース\*

バンディット・ニジャタウォーン

\*ADBI-FSA-慶応大学コンファレンス  
「アジアの経済成長促進における金融セクターの役割」  
2011年2月3日、東京、日本

# タイ金融セクター発展の3つのステージ

再構築



アジア通貨危機の影響  
(1998年以降)

調整



世界金融危機への対応  
(2007年半ば～2009年)

再生



改革の継続  
(2009年～現在)

# タイ金融システムの主要データ

	1996	2007
金融システム資産	12,964	26,375
対国内総生産比 (%)	281	311
預金等受入金融機関	8,031	11,129
銀行	5,537	9,006
民間銀行	3,859	5,981
国営銀行	1,206	1,823
外資系銀行 (50%超)	472	1,202
政府系特殊金融機関 (資産管理会社を除く)	718	2,075
ファイナンス・カンパニー	1,767	47
クレジット・フォンシア会社	9	-
ノンバンク金融機関及び管理ファンド	1,973	3,796
資本市場	2,960	11,451
株式	2,474	6,674
債券	486	4,776
参考		
名目国内総生産	4,611	8,485
デリバティブ	33	14,272

# アジア通貨危機後の金融セクター再建

- アジア通貨危機はタイの金融システムに大きな打撃を与え、破壊的な影響をもたらした
- 影響のピークは1998年。その後、金融システムの包括的な再構築を経て、改善が始まる
- 改革への主な取り組み：
  - 脆弱な銀行への介入及び資本強化
  - 銀行セクターの整理統合
  - 規制・監督フレームワークの改革

# タイ銀行セクターの財務実績

	1998	2006	2007	2008	2009
純損益	-360	65	24	99	92
預貸利ざや	1.1	3.1	3.1	3.2	2.9
資産収益率	-5.1	0.8	0.3	1.0	0.9
自己資本比率	10.9	14.1	14.9	14.1	16.1
総融資に占める不良債権比率	43.0	7.5	7.3	5.3	4.8
参考： ノンバンク会社の負債自己資本比率	1.2	0.8	0.7	0.8	0.7

注：<sup>1/</sup>中間値

出典：タイ銀行

- 2008年の金融セクター評価プログラム（FSAP）報告において、完全に健全な状態への復帰を確認
- しかし、法的枠組みの弱さ及び市中銀行部門において拡大した政府の役割が引き続きシステムの重荷に

# 世界金融危機の影響に適応

- 金融、実体及び信頼を主な経路としてタイに影響
- タイの銀行不良資産の少なさ、世界市場での資金調達への依存の低さから、直接的影響は限定的
- 世界経済の成長鈍化やデレバレッジ（債務の返済）による間接的な影響がより深刻。マクロ経済及び金融面からの政策対応が必要

# 政策対応

- マクロ経済面の対応
  - 金融政策
  - 財政政策
  - 米ドルの流動性への対応
- 金融面の対応
  - 銀行預金に対する政府保証
  - 中小企業に対する信用保証枠
  - バーゼルII基準の導入
  - 法制面の改革

# 再生：現在の規制及び監督に関する改革

- 2009年、金融セクターの5カ年開発計画である第2次金融マスター・プラン（FSMP II）を開始
- 3つのポイント：効率向上、アクセス拡大、並びに金融市場、金融インフラ及び金融機関の強化
- FSMP IIが有する3本の柱：

第1の柱 システム全体の運営コストの削減

第2の柱 マイクロファイナンス（小規模金融）促進による競争促進及び金融サービスへのアクセス拡大

第3の柱 4分野での金融インフラの強化：リスク管理能力、法制、IT及び人的資源